

IEA 「WEO 2010」 東京シンポジウムを終えて

(財) 日本エネルギー経済研究所
理事 戦略・産業ユニット総括
小山 堅

IEA による最新版の世界エネルギー見通し「World Energy Outlook (WEO) 2010」が 11 月 9 日、ロンドンで発表された。それに引き続き、11 月 15 日には、東京で IEA 田中伸男事務局長による基調講演を含む国際シンポジウムが弊所と IEA の共催で開催され、350 人近い参加者を集めた。

WEO は IEA にとっても「フラッグシップ成果物」と位置付けられる最重要分析であり、かつ世界的に見ても、最も代表的で著名な長期エネルギー見通しである。そして WEO2010 は、世界全体のエネルギー未来について、包括的かつ詳細な分析を行うことで 2035 年までのエネルギー需給と二酸化炭素排出問題に関する将来展望を行い、それを踏まえた政策提言を示すものとなっている。また、今回の WEO の特徴として、気候変動、再生可能エネルギー、エネルギー補助金、非在来型石油、カスピ海エネルギー問題、エネルギー貧困問題、の 6 つの重要「トピック」を掲げ、掘り下げた分析を行っている。そして、以下説明するとおり、将来像について 3 つの異なるシナリオを提示している。

では、この WEO2010 の特徴は何か。全編で 700 ページを超える大部のレポートであるが、その内容と東京シンポジウムでの議論を踏まえ、あくまで筆者の個人的見解に基づいて、敢えて焦点を絞ってまとめると以下の通りになる。

第 1 に、WEO2010 の重要な特徴はシナリオ設定にあるのではないかと。昨年までの WEO では、現在の趨勢・政策動向がそのまま続く自然体の将来像を「レファレンスシナリオ」と呼び、長期見通し・分析の参照基準としていた。しかし、今回の WEO ではそもそも「レファレンスシナリオ」という言葉が使用されなくなっている。もっとも概念的には昨年までの「レファレンスシナリオ」に該当する、2010 年央時点で公式に採用された政策だけを考慮するという「現行政策シナリオ」が用意されてはいる。ポイントは、WEO2010 で分析の中心と位置付けられたのは、最近までに発表されたエネルギー・環境政策・公約・計画が慎重にはあるが今後実行されていくことを想定した「新政策シナリオ」という新しいシナリオが用意されたことである。まさに WEO2010 は、この「新政策シナリオ」における将来像を中心にした分析が展開され、これが他のシナリオを見る上でのベンチマークとなっている。それだけ、この「新政策シナリオ」の設計・前提とそれに基づく定量分析結果

の持つ重みは大きい、ということになる。

なお、第 3 のシナリオとしては、昨年同様、地球の平均気温上昇を 2 度 C にとどめるための道筋を示す「450 シナリオ」も用意されている。この説明からもわかる通り、「450 シナリオ」は、ある規定された目標を達成するため将来がどうなっていく必要があるかを示す規範的な将来像であり、「Backcast」的な考えに基づいている、と言って良い。他方、その点で「新政策シナリオ」は、ボトムアップ的な考えに基づいた「Forecast」であることで興味深い差異を持つ。WEO2010 の本編の中でも、東京シンポジウムの議論中でも、必ずしも明示的に示されているわけではないが、筆者の印象として、現実の将来像はこの 2 つの特徴あるシナリオ(将来像)のどこか間に落ち着くのではないかと、またその中でも「新政策シナリオ」は現時点ではより「ありそうな」という含意を有するシナリオ設定になっているのではないかと考えられるのである。

こうした、3 つのシナリオに基づく詳細・膨大な定量分析・モデル分析に依拠しつつ、この WEO2010 のもう一つの大きな特徴は、これまでの WEO 以上に政策提言志向が非常に強いのではないかと、という点である。この点は、WEO2010 のエクゼクティブサマリーを見ても示唆されるように思われるが、基礎である定量分析結果の説明というより、それを踏まえた政策的インプリケーションと提言に力点が置かれているように感じる。

その政策的インプリケーションに関しても、多種多様かつ広範な内容を含むものであるが、これも筆者の個人的見解でまとめると、①世界のエネルギー市場は前例の無い大きな不確実性に直面していること、②ただし、いかなるシナリオの下でも、長期的に化石燃料の(従ってその市場の)安定性の重要性は大きいこと、③大きな不確実性を伴う将来において、ますますエネルギー安全保障と温暖化対策の重要性が高まって行くこと、④上記はいずれも世界大の問題であるが、その中で新興国(とりわけ中国)の重要性が増大していくこと、⑤これらの政策課題はまさにこれから国際社会が直面する巨大なチャレンジであること、⑥しかし、その解決は「450 シナリオ」の実現も含め決して「不可能」というわけではなく、極めて強力で、本格的・積極的・真剣な取り組みが求められること、となっている。上記の①～⑥の点について、ここでは数値・データに基づく説明は割愛するが、もちろん WEO2010 の中では、これらが敷衍されていることはいうまでもない。

要するに、WEO2010 は、将来に関する新たなシナリオ設定の下で、今後、強力かつ積極的なエネルギー・環境政策の取り組みが求められることを強調する内容となっている。WEO の世界での注目の高さや重要性を鑑みると、そこから発信される政策メッセージは大きな意味合いを持つと考えてよい。今後、エネルギー・環境問題への政策的対応に関しては、世界で、そして各国毎に真剣な議論が進められていくことになろうが、WEO2010 はその政策的かつ知的議論に有意義な一石を投ずる役割を果たしていくことになろう。

以上

お問い合わせ: report@tky.iej.or.jp